

共同研究事例Ⅲ

研究者
工学院大学研究期間
平成29(2017)年度～

概要

- ・我が国の総人口減少局面への転換、社会情勢の変化等により、空き家・空地問題の増加・常態化が懸念されています。
- ・この研究では、今後の人口減少社会において**空地が環境問題となることを回避**するために空地を新たに“**グリーンインフラ**”として、人が使えるものとしてデザインする技術及び“**グリーンインフラ**”の利活用手法について研究を行っています。

実証フィールド

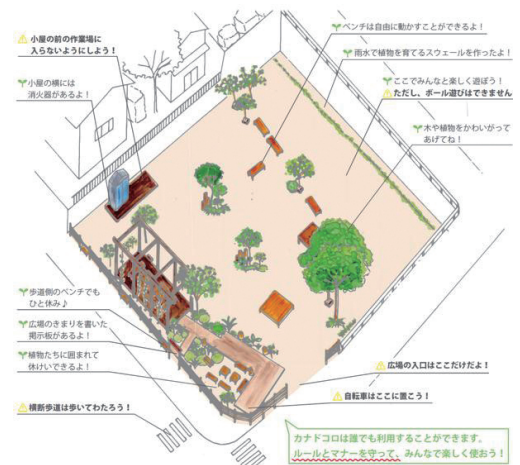
麻生区金程4丁目

人口減少社会における
グリーンインフラとしての
空地デザイン技術ならびに
空地まちづくりの構想技術に関する研究

整備直前の状態



整備後



[基本整備]～土地の保水機能や人の滞留する空間づくり等～
樹皮のマルチング、スウェール(緑溝)、パーゴラ(日よけ)植栽、フローリングスペース、ベンチなどを設置し、10月から“カナドコロ”として開放中！

カナドコロ最新情報はこちら
Instagram
@kanadokoro.endolab
Twitter
@kanadokoro
Facebook
カナドコロ

川崎市の持つ資源

研究フィールド

地域住民等との連絡調整力

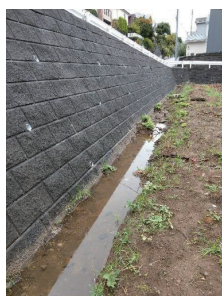
共同研究者の持つ資源

空地デザイン及びまちづくり構想に係る知見
まちづくり構想に係るネットワーク
ワークショップ等に係る企画力・ノウハウ

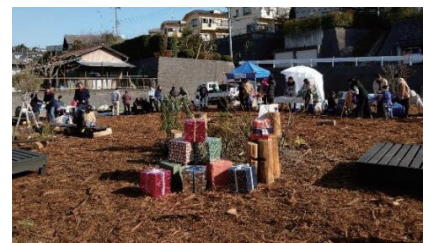
2017年度 グリーンインフラとしての空地デザインプロトタイプの実証等

麻生区金程の公益用地をフィールドとした社会実験としてスタート。

雨水が地面に浸透し地下水として保たれることを促すことで生物の生育を助長するとともに、緑化が人に与える効果(印象、日陰環境、視覚効果等)を目的に、全面樹皮マルチング、スウェール(生物低湿地。流入水をろ過浸透させる機能を有する。)及び季節感のある植栽などを配置したグリーンインフラのプロトタイプを整備しました。整備後は、地域住民の理解、参加を図るため、現地でワークショップなどを開催し、プロトタイプに対する地域住民の期待・要望、課題等を把握しました。



保水力を高めるスウェール、樹皮マルチング



ワークショップ、イベント開催時の様子